

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

はヨハネが光たるイエスを証しするために来たことを強調しています。

今日の聖書テキストには「証し」に類する単語が3度使われています。7節の名詞形の *μαρτυρία* (マルテュリア) と7節と8節の動詞形 *μαρτυρέω* (マルテュレオー) です。この単語は「証明」や「(法廷の) 証言」を意味しますが、ローマ帝国の禁教であったキリスト教を「証し」することが死を招いたことから、古代キリスト教史において「殉教」をも意味するようになり、この語から派生して英語などの *martyrdom* という単語が生じました。ヨハネの生涯は有名なオスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』(1893年)の基になったマルコ福音書6:14-29からも知られるように、ヘロデ・アンティパスによって斬首刑に処されました。ヨハネが預言者の如く王族批判を忌憚なく行った結果です。つまり、ヨハネは自分の信念を貫いて真実を「証し」したゆえに「殉教」へと行き着いたということです。どの時代でも付度などによって真実が捻じ曲げられ、そこで真実を貫こうものなら、殉教はしないまでも、ネットの中傷、バッシング、社会的な排除が待ち構えています。10月1日にアントニオ猪木が亡くなりました。わたしのスーパーヒーローであり、その姿は全盛期の強いときも、最近の病に臥した弱い姿であっても、自分の信じる道を曲げることなく進んでいたことが偲べれます。ヨハネや猪木のように強くないわたしたちですし、殉教をする前に逃げるのが賢明ではあるのですが、社会人としても、研究者としても、自分の人生において「真実を証しする者の覚悟」を持ち続けたいのです。

【2022年度秋期キリスト教教育強調週間(リモート礼拝)】

- ・日時：2022年10月25日(火) 10時40分
- ・聖書：マルコによる福音書8章27～30節
- ・主題：「イエスとは何者か——『思想及び良心の自由』をめぐってキリスト教について考える」
- ・講師：日向恭司先生(日本キリスト教団名寄教会牧師・名寄幼稚園園長、元日本キリスト教団北海教区幹事)

今回の強調週間では日向先生を通じて「イエスとは何者か」についてお話いただき、そこからさらに問題が顕在化している旧統一教会(世界平和統一家庭連合)とカルト宗教の問題を含めて「『思想及び良心の自由』をめぐってキリスト教について考える」機会とします。ご出席ください。

【次回の大学礼拝】2022年10月18日(火) 10時40分

聖書：ヨハネによる福音書1章9-10節

奨励：「真理とは理解されないもの」小林昭博先生(宗教主任)

【大学礼拝週報】2022年度 第18号(後学期第3号)

2022年10月11日(火) 午前10時40分

リモート礼拝(酪農学園大学 黒澤記念講堂)

《大学礼拝》

〈礼拝動画の配信〉

前奏

讃美歌 讃美歌21 434番(主よ、みもとに)

聖書 ヨハネによる福音書1章6-8節

奨励 「真実を証しする者の覚悟」小林昭博先生(宗教主任)

祈り

讃美歌 讃美歌21 532番(やすかれ、わがこころよ)

報告

後奏

【本日の聖書】ヨハネによる福音書1章6-8節

6神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。7彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。8彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

【奨励】「真実を証しする者の覚悟」

本日の聖書は洗礼者ヨハネにについて記していますが、共観福音書とは全く異なる抽象的・観念的な姿が示されています。本日の礼拝ではヨハネ福音書が描く洗礼者ヨハネ像から人生の覚悟について学んで参ります。

6節は洗礼者ヨハネを唐突に登場させています。ヨハネ福音書は1:15-34で共観福音書を用いてヨハネをイエスの先駆者として描き、そこで彼に「わたしはキリスト(メシア・救い主)ではない」と言わしめています。この背後にはヨハネの弟子であったイエスが彼と袂を分かち、独立して活動を開始したという歴史的経緯があったことが想定できます。7節はヨハネが救い主ではなく、イエスを証しして、あらゆる人がヨハネを通して光であるイエスを信じるようにするために遣わされたと述べています。8節